

平成 28 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	郷土作家・小川未明の文学を市民とともに考える
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 人文・社会教育学系 教授・小埜裕二
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 小川未明研究会 (担当者職名・氏名) 作家・杉みき子・小川未明研究会顧問
4 事業の趣旨・目的	郷土作家・小川未明は、50 年以上の文学活動を行った。その 50 年は、地方創生のための 50 年であった。未明は、彼の郷土である高田を、近代化が引き起こした諸問題の集約された象徴的な場として繰り返し作品に描いた。本事業は、上越市民の参加する「小川未明研究会」の活動を通じて、小川未明の文学から見た地方創生の手がかりを得ることを目的とする。これまでの教育・研究成果を広く地域社会に還元するとともに、事業の成果を地域の文化振興に活かす。
5 事業活動報告	「小川未明研究会」を主宰し、本事業の趣旨・目的を遂行するための活動を行った。研究会は、毎回、上越市民 25 名程度が参加し、本学院生も数名参加した。平成 28 年度は下記のとおり全 9 回(毎月第 1 土曜日午後 2 時から 4 時まで、7～8 月と 2 月は休会)の研究会を開催した。未明作品の研究と顕彰を行うとともに、文学から見た地方創生の手がかりを得ようと努めた。本事業では、外部講師(新潟大学教授 1 名、本学院生 2 名)を招いて、3 月 4 日に市民シンポジウムを行い、広く一般市民にも参加を呼びかけ、小川未明文学について活発な議論を行った。小川未明の顕彰と地域の文化振興がはかられた。研究会開催日は以下のとおりである。平成 28 年 4 月 2 日(土)、5 月 7 日(土)、6 月 4 日(土)、9 月 3 日(土)、10 月 1 日(土)、11 月 5 日(土)、12 月 3 日(土)、平成 29 年 1 月 7 日(土)、3 月 4 日(土)。
6 本事業で得られた成果	1、本学大学院生が市民と協働し、地域の文化振興に努めていくことを通して、将来、教員となる大学院生の社会性・協働性・実践力を高めることができた。 2、小川未明研究会の活動を通じて、上越市・小川未明文学館・その他の市民サークル等との連携ができ、小川未明の顕彰や地方創生への実地的な動きを、市民レベルで始動させることができた。
7 その他 (成果物等の名称)	市民シンポジウム(平成 29 年 3 月 4 日)開催の記事が「上越タイムス」に掲載された(同年 3 月 5 日付)。本事業の成果の一つとして『新選小川未明秀作小説 20 未知の国へ』(平成 29 年 5 月刊行予定、蒼丘書林)を刊行する。

未明文学の基底読む

小川未明 背景に「子の死」

シンポジウム

小川未明研究会(小
林裕三上越教育大教授
主宰)は4日、上越市
本町6の町家交流館高
田小町でシンポジウム

「未明文学の基底を
読む」をテーマに、
未明は大正5年と
7年に長男と長女を病

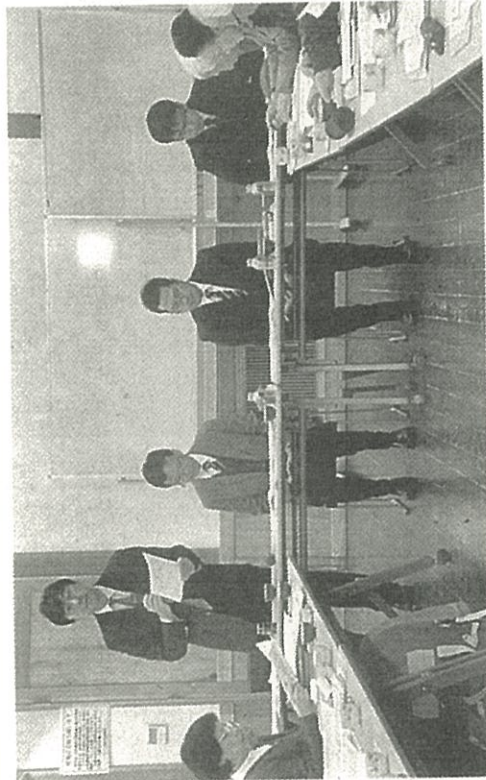
気で失っている。「未
明の文学や活動の変化
の背景に2人の子ども
の死がある」(小森教
授)との観点から、大
正期の未明の作品を解
説した。

パネリストは新潟大
の堀電二教授、上越教
育大修士課程1年の白
井賀矢さん、同1年の

片桐遼平さん、小森教
授が務め、「藪蔭(や
ぶかげ)」「大正4
年」「黒幕の裏
(同8年)」「すべて
が美しく」(同10年)
を取り上げた。いずれ
の作品も子どもを喪
失した悲しみを描い
ている。

小森教授は未明が子

どもの死や病気に連
帯の存在を感じてい
たり、「運命からどう
も一歩を踏み出すの
か」が未明の活動の
変化したと説明。社
会主義運動への参加
や真実作客宣
言へつながらって
話した。



パネリストの4人。(左から)小森教授、堀電二教授、白井賀矢さん、片桐遼平さん

日米共同訓練

上越市で反対行動

県民集会 650人が訴え行進

上越、妙高両市に
たがる陸上自衛隊関山
演習場など6日から
17日まで実施される
日米共同訓練に反対
する「オスプレイ来るな」
日米共同訓練反対県
民集会が4日、上越市

下門前のかに池公園
で行われた。北信越各
地から集まった平和活動
団体や労働団体、政党
の関係者や市民らら
9人が、オスプレイ参
加の日米共同訓練反対
などを訴え、デモ行進

を行った。

集会は「戦争法廃
止」総がかり行動新潟
実行委員会が主催。
県内の平和活動団体や
長野、富山、石川、福
井、東京からも参加が
あった。地元主催者を



(有)伴将 伴内石找
東本町5

代表して社
連合の小山
「全国どこ
でも危険な
ブレイク
としても止
い。上越か
スプレイの
米共同訓練
上げよう」
した。
関山演習
住む松岡京
「周辺に景
設、観光地
り、もし落
ら切ない。
が来ること



■上越3市の積雪量
4日午前9時現在・単位センチ

上越市	0
柿崎	0
高士	0
北城	0
糸魚川市	68
糸魚川地域音坂	0
大野小	106
小滝	0
一の宮	0

第 18 回「小川未明研究会」

上越教育大学教授 小笠裕二

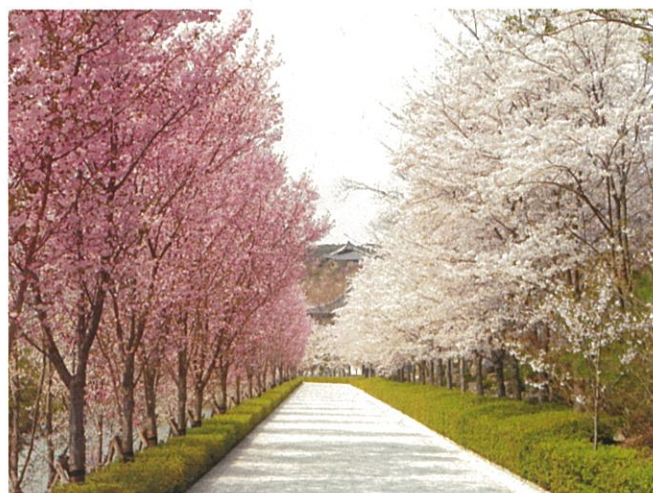
新年度になりました。今年は、高田の桜の開花も例年より早いようです。来週の土日あたりが、見ごろでしょうか。ご多用のなか、本日も、小川未明研究会にご参加下さり、ありがとうございます。本日は、昭和 3 年発表の「冬のない国へ」から昭和 5 年発表の「雪と蜜柑」までの 16 編の童話を読みます。未明 46 歳から 48 歳までの作品です。

小川未明研究会の第 2 期は、平成 28 年 9 月からスタートいたします。新たなメンバーも募り、作品講読や研究発表を中心としながらも、会の目的を拡大し、未明顕彰の諸活動を加えた多面的な研究会にするつもりです。(第 1 期のテーマ「小川未明の故郷」の童話テキストを読み残していますので、平成 28 年 5 月 6 日は第 1 期分の活動を継続します。7 月 8 月はお休みです。)

第 2 期は、これまでの蓄積をふまえ、作品講読の他、作品数やテーマを限定し、深く未明文学を捉えていきます。テーマは「未明文学読み深め」(仮)です。未明文学の他にはない特質を浮き彫りにしていけたら幸いです。また小川未明文学館と連携しながら、未明顕彰のための事業を計画し、実施に向けて活動していきます(文学散歩や未明グッズの企画・製作、等々)。第 2 期は第 1 期同様、平成 30 年 3 月までの全 16 回シリーズです。第 2 期も、毎月第 1 土曜日午後 2 時～4 時(2 月・8 月はお休み)に開催いたします。(新メンバー募集は、7 月 1 日号の「上越市広報」を通じて行う予定です。現会員の方は、新たに手続きをとっていただく必要はございません。)

お知らせ

- ・『小川未明 郷土小説名作選—山上の風・雪穴—』(永田印刷出版部)が刊行されました。皆さまのお蔭です。受け取っていただけると幸いです。
- ・上越教育大学公開講座で、「日本の短編小説の名作を読む」シリーズを開催します。月 1 回、年 10 回の文学講座です。5 月から。
- ・小川未明文学館の専門指導員を本年度から務めることとなりました。多くの人の声に耳を傾け、まずは文学館の集客力を高めたいと思います。
- ・「小川未明文学館紀要」創刊号が刊行されました。



今後の予定

開催日	行事内容	開催場所	備考
2016 年 4 月 2 日(土)	童話を読む		小説に描かれた高田の特徴を考えます。
5 月 7 日(土)	童話を読む		
6 月 4 日(土)	童話を読む		
7 月～8 月	お休み		
9 月 3 日(土)	第 2 期スタート		

第 19 回「小川未明研究会」

上越教育大学教授 小埜裕二

ゴールデンウィークも明日一日となりました。皆さんは、いかがお過ごしになられましたか。私は、東京八王子へ車で行って帰ってきた二日間以外は高田におりました。颱風なみの風を心配したり、庭の草とりをしたり、テニスをしたりした以外は、おとなしく自宅で種々仕事をしておりました。

未明童話以外の作品の書誌原稿が、連休中に、概説を残し、ほぼ完成の域にまで辿り着きました。週明けの水曜日に、印刷所へ入稿し、校正をへて6月に刊行されます。ほぼ 2000 点の未明作品(小説、感想、批評、詩など)の本文を収集し、初出誌や初出年月日を調査し、要旨を書き、収録状況を調べ、ようやくここにいたったことは感無量です。『全童話』の書誌刊行が 2012 年 12 月で、その後に着手した仕事ですから、ほぼ 3 年間この作業に取り組んだことになります。(水曜日までに「概説」を完成させなければなりません。)

本日は、「おきくと弟」から「雪消え近く」までの 15 編の童話を読みます。

小川未明研究会の第 2 期は、平成 28 年 9 月からスタートいたします。新たなメンバーも募り、作品講読や研究発表を中心としながらも、会の目的を拡大し、未明顕彰の諸活動を加えた多面的な研究会にするつもりです。(平成 28 年 6 月までは第 1 期分の活動を継続します。7 月 8 月はお休みです。)

第 2 期は、これまでの蓄積をふまえ、作品講読の他、作品数やテーマを限定し、深く未明文学を捉えていきます。テーマは「未明文学読み深め」(仮)です。未明文学の他にはない特質を浮き彫りにしていけたら幸いです。また小川未明文学館と連携しながら、未明顕彰のための事業を、計画し、実施に向けて活動していきます。第 2 期は第 1 期同様、平成 30 年 3 月までのシリーズで、毎月第 1 土曜日午後 2 時～4 時に開催いたします。(新メンバーの募集は、「上越市広報」を通じて行う予定です。現会員の方は、新たに手続きをとっていただく必要はございません。)



お知らせ

・上越教育大学公開講座で、「日本の短編小説の名作を読む」シリーズを開催します。月 1 回、年 10 回の文学講座です。5 月 11 日から。

今後の予定

開催日	行事内容	開催場所	備考
2016 年 4 月 2 日(土)	童話を読む	高田小町	小説に描かれた高田の特徴を考えます。
5 月 7 日(土)	童話を読む	高田小町	
6 月 4 日(土)	童話を読む	高田小町	
7 月～8 月	お休み		
9 月 3 日(土)	第 2 期スタート	高田小町	

第 20 回「小川未明研究会」

上越教育大学教授 小埜裕二

バラの花の美しい季節です。随筆「野薔薇の花」には次の一節があります。「その時分私の家の前には、一株の野薔薇が咲いていた。ちょうど朝の日がその野薔薇に当たって、蜜蜂だの、虻だのが、翼をぶんぶん鳴らして集まってくる時刻に、その女の子は私を誘いに来た。しかしその娘は、やがてまたどこか遠い処へ行ってしまった……。」

本日もご多忙のなか、本研究会にお出で下さり、まことにありがとうございます。このひと月、皆さん、いかがお過ごしになられましたか。この研究会も第1期が本日で一段落し、9月から第2期を迎えます。平成 26 年9月開催の第1回目には、「第1期は、「小川未明の故郷」をテーマに、平成 28 年 3 月まで、全 16 回の開催を予定しています。雪国・北国を描いた未明にとって、故郷はどういうものであったのか、名作を鑑賞しつつ、作品に登場する具体的な地名や時代状況等を紹介いたします。」と記しました。毎月、関連する随筆を読み、小説を読み、童話を読んでまいりました。皆さんのご熱意とご協力のおかげで有意義な会となりました。感謝申し上げます。(本日は、童話「夜の進軍らっぱ」から「古いつぼ」までの 8 編を読みます。)

本日は、出来上がったばかりの『人物書誌体系 45 小川未明Ⅱ 全小説・随筆』(日外アソシエーツ)をお持ちしました。この本によって、前著『同 全童話』と合わせて、未明文学の全容が明らかになりました。他の多くの作家については、研究をスタートさせるとき、あるいは多くの読者が作品に接するとき、その作家の作品がどのくらいあり、いつどこに発表されたかなど悩むことはありません。それとほぼ同じ地点に未明文学が立ったことになります。未明が生涯に書いた作品数は、童話約 1200 編、小説約 650 編、その他約 1400 編です。(他作家の書誌資料にないものとして、全作品あらすじ・要旨附です。)

次は、全集未収録の小説・随筆等を公にすること(電子データにて。童話は『小川未明新収童話集』全 6 巻により発表済。)、未明文学の価値を周知することが仕事になります。研究会第2期以降は、「研究と顕彰」を活動の中心に置きたいと思います。

小川未明研究会の第2期は、平成 28 年 9 月 3 日(土)からスタートいたします。第2期は、これまでの蓄積をふまえ、深く未明文学を捉えていきます。また小川未明文学館と連携しつつ、未明顕彰のための事業を、計画、実施いたします。第2期は第1期同様、平成 30 年 3 月までのシリーズで、毎月第1土曜日午後 2 時～4 時に開催いたします。(新メンバーの募集は、「上越市広報」を通じて行う予定です。現会員の方は、新たに手続きをとっていただく必要はございません。)



今後の予定

開催日	内容	開催場所	備考
6 月 4 日(土)	童話を読む	高田小町	
7 月～8 月	お休み		
9 月 3 日(土)		高田小町	第 2 期スタート
10 月 1 日(土)		高田小町	

平成 28 年 9 月 3 日

第 1 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

残暑お見舞い申し上げます。本日は、ご多忙のなか、小川未明研究会にご参加下さり、ありがとうございます。平成 21 年度から「小川未明童話研究会」「小川未明小説研究会」「小川未明研究会」と名称を変えながらも小川未明に関する研究会を継続的に開催してまいりました。この活動にかねてより協力して下さっている会員の皆様に厚くお礼申し上げます。またこのたび新たに研究会にご加入下さった皆様にも心よりお礼申し上げます。未明文学の意義が周知され、またそのことを通じて郷土がさらに振興することを願っています。これからも力をお貸し下さい。

小川未明研究会 (第 2 期) のテーマは、次のとおりです。これまでの活動の蓄積を活かし、今期は、未明文学の研究成果を全国に発信することと、顕彰活動を通じて文学館や地域を活性化することを願って研究会を進めてまいります。

未明文学の研究と顕彰

これまで未明に関するものとして、次の単行本を刊行してきました。

- ・『新選小川未明秀作童話 50 ヒトリボッチノ少年』(平成 24 年 7 月、蒼丘書林)
- ・『新選小川未明秀作童話 40 灯のついた町』(平成 25 年 9 月、蒼丘書林)
- ・『新選小川未明秀作随想 70 ふるさとの記憶』(平成 27 年 7 月、蒼丘書林)
- ・『小川未明郷土小説名作選 山上の風・雪穴』(平成 28 年 3 月、永田印刷出版部)
- ・『小川未明新収童話集』全 6 巻 (平成 26 年 1 月～3 月、日外アソシエーツ)
- ・『人物書誌大系 43 小川未明全童話』(平成 24 年 12 月、日外アソシエーツ)
- ・『人物書誌大系 45 小川未明Ⅱ全小説・随筆』(平成 28 年 6 月、日外アソシエーツ)
- ・『解説小川未明童話集 45』(平成 24 年 2 月、北越出版)
- ・『解説小川未明小説 1』(平成 26 年 3 月、永田印刷出版部)

本年 7 月には小川未明連絡会議が発足いたしました。小川未明文学館が開館 10 周年を迎え、新たな次の 10 年に向けて動き出そうとしています。未明に対する世の評価は低すぎると言ってもよいでしょう。今後 10 年の活動の構想を立て、具体的かつ着実に計画を進めてまいります。

私個人の仕事としては、今後、『未明ふるさとの童話名作選』『新選小川未明秀作小説 30 一堤防を突破する浪』『評伝小川未明』『童話論小川未明』『小説論小川未明』『小説小川未明』をこの 10 年間に形あるものにしたいと願っています。研究者の招へい、市内外での講演活動、研究紀要の継続的発刊、童話の翻訳 (中国語、韓国語)、未明関係データの提供も進めてまいります。小川未明連絡会議の活性化、とりわけ三館構想 (文学館、生家、春日山神社) の実現が私の切なる願いです。

小川未明文学館では次のことを進めていく予定です。

- ・ 小川未明観光ポスターの製作
- ・ 所蔵資料データベース化
- ・ 文学散歩の開催 (マップの作成)
- ・ 展示室の拡張
- ・ 展示品の充実
- ・ 資料・文献の充実
- ・ 閲覧環境の整備
- ・ 館内 PC の整備
- ・ 子ども室の充実
- ・ ネット文学館の展開 (入口と中身)
- ・ 特別展の企画運営



- ・ 文学館講座の企画運営
- ・ 文学館紀要の逐次刊行
- ・ 所蔵品紹介
- ・ 朗読会
- ・ 童話を体験する（子供たち）
 - 「野ばら」バラの季節にバラの花を置き、周りにソファを設置。
 - 「ガラス窓の河骨」河骨を実際に展示。
 - （植物と未明童話）（虫と未明童話）（鳥と未明童話）等、いろいろ可。
 - 「金魚売り」一年に一日だけの金魚売り。
 - 「赤い蠟燭と人魚」蠟燭の絵付け体験。
 - 「自分の作った笛」笛づくり体験。
 - 「飴チョコの天使」飴チョコ作り体験。
 - 「酔っぱらい星」とクリスマス
 - 七夕と未明、お雛様と未明、お月見と未明、等々。
- ・ ダウンロード資料の作成（ブックカバー、カレンダー）
- ・ むりえ作製（挿絵画家の著作権が切れたものを使用）
- ・ 野ばら作文コンクール・童画コンクール
- ・ 販売コーナーの充実（市の製作品のみ）
- ・ 小川未明家の石塔と水鉢の活用（市内展示）
- ・ 憩いのスペースと絵の展示
- ・ かるた作製

本研究会で行う顕彰活動のアイデアを募ります。文学館の中の活動、市内外における活動、その他の活動さまざま考えられますが、まずは文学館を舞台に活動を考えたいと思います。文学館は高田図書館の中にあります。多くの人が集まる場所です。人の流れはありますから、その人達を文学館に導く流れを作りたいと思います。とくに子供たちが興味をもって集まる場所にしたいと思います。

最初は月に一度か、ふた月に一度、簡単な展示をするところから始めてみてはどうでしょうか。今からですと、12月のクリスマス展示を考えるというのでいかがでしょう。ツリーを置いて（あるいは描いて）、そこにやってきた子供たちが飾り付けをする。「酔っぱらい星」の童話が読める（聴ける）椅子とテーブルを用意する。月ごと（季節ごと）にそれを続けていきます。できるだけ簡単に。（アイデアを文学館に提供し、文学館が実施する形をとりたいと思いますが、文学館には現在、常駐する学芸員がおりません。）

クイズラリーのクイズづくり、むりえの選定、子供朗読会の開催、ギャラリー開放デー（大学生が子供と遊んでくれる）、工作の準備等々、さまざまなアイデアを募集いたします。来月の研究会では顕彰にかかる全体構想について話し合いができれば幸いです。（皆さん全員から意見を求めることはいたしません。顕彰においては、あらゆる意味において皆様にご負担をかけないことを強く念じて進めます。）

次回は10月1日です。会場は高田小町です。次回は、前半に、先月に五智歴史の里会館でお話した「未明のふるさとと海の関わり」について、あらためてお話をします。後半は、顕彰の話合いを行います。

▼とき: 毎月原則第1土曜日午後2時～4時（2月・8月はお休み） ▼ところ: 高田小町ほか
▼連絡先: 小埜裕二（携帯 080-1383-9617 研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp）

今後のスケジュール（予定）

開催日	研究報告	開催場所	備考
9月3日(土)	「大きなかに」	高田小町	顕彰のための全体構想を考えます。
10月1日(土)	郷土と海	高田小町	
11月5日(土)	未定	高田小町	

平成 28 年 10 月 1 日

第 2 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

金木犀の香りが心地よい季節です。本日もご多忙のなか小川未明研究会にご参加下さり、ありがとうございます。

前回の研究会後、仕事の合間に『小川未明郷土童話名作選 60』『新選小川未明秀作小説 30』(別紙)のリストアップを行いました。今後、本文を電子データ化し、解説をつけます。刊行は新年度 4 月の予定です。お楽しみに。

前回の研究会で取り上げた「大きな蟹」に関する文章を書いてみました。「大きな蟹」のような童話を書ける作家は、これまで日本にいませんでした。人の運命を、生と死を描いて子供に伝えようとした背景について書いたものです。このような文章を今後 12 本程、まずは童話論を中心に書いてみます。未明童話の特徴が文章を通して伝わるようにいたします。

本日は「大きな蟹」の続きをお話ししたあと、その運命観が郷土の気候風土、海によって作り上げられたことについてお話いたします。空や海が未明の身近にあったこと、その自然の無限性を背景に、人間の命のはかなさが感じ取られていたようです。未明の家が春日山の頂き近くにあり、そこから海を見渡すことができたことが未明文学の根幹を形作りました。

研究会で行う顕彰活動のアイデアを募ります。文学館の中の活動、市内外における活動、その他の活動さまざま考えられますが、まずは文学館を舞台に活動を考えたいと思います。文学館は高田図書館の中にあり、多くの人が集まる場所です。文学館に人を導く流れを作りたいと思います。とくに子供たちが興味をもって集まる場所にしたいと思います。

今回は、12 月のクリスマス展示を考えてみました。ツリーを置いて(あるいは描いて)、そこにやってきた子供たちが飾り付けをする。「酔っぱらい星」の童話が読める(聴ける)椅子とテーブルを用意する。1 童話、2 童話に係る実物展示、3 工作、4 椅子とテーブル、あたりが今後の基本セットでしょうか。

クイズラリーのクイズづくり、ぬりえの選定、子供朗読会の開催等々、さまざまなアイデアを募集いたします。本日の研究会では顕彰にかかる全体構想についても話し合いができれば幸いです。

次回は 11 月 5 日です。会場は高田小町です。次回は、「赤い蠟燭と人魚」について考えてみたいと思います。後半は、顕彰の話し合いを行います。



▼とき: 毎月原則第 1 土曜日午後 2 時～4 時 (2 月・8 月はお休み) ▼ところ: 高田小町ほか
▼連絡先: 小埜裕二 (携帯 080-1383-9617 研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp)

今後のスケジュール (予定)

開催日	研究報告	開催場所	備考
9 月 3 日 (土)	「大きなかに」	高田小町	顕彰のための全体構想を考えます。
10 月 1 日 (土)	「郷土と海」	高田小町	
11 月 5 日 (土)	「赤い蠟燭と人魚」	高田小町	
12 月 3 日 (土)	「金の輪」	ミューゼ雪小町	
1 月 7 日 (土)	「月夜と眼鏡」	高田小町	
2 月はお休みです			
3 月 4 日 (土)	「気まぐれの人形師」		

平成 28 年 11 月 5 日

第 3 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

石路の黄色い花が美しい季節となりました。本日もご多忙のなか小川未明研究会にご参加下さり、ありがとうございます。

9 月の研究会で取り上げた「大きな蟹」では、「大きな蟹」のような童話を書ける作家は、これまで日本にいなかったと述べました。人の生死の厳肅性を自然との関わりにおいて描いて童話でした。そうしたテーマを子供に伝えることをよしとした童話に対する未明の確かな思いと、小説家としての蓄積がこの童話を書かせました。

10 月の研究会では、未明の聖地としての郷土が、春日山の上下の空間だけでなく、海に向かう南北の空間からも特徴づけられることとお話しました。上下の空間は「雲」によって、南北の空間は「海」によって作品化されています。北の「海」から流れるエネルギーによって、未明文学がたえず活性化されたと述べました。

さて本日の研究会では、「赤い蠟燭と人魚」について考えます。これまでの解釈を前へ進める手がかりについて述べます。作品が発表された大正 10 年前後の時代状況をふまえ、未明が本作を通して何を伝えようとしたのか考えます。

12 月の研究会では、「金の輪」を中心に、子供の死が未明文学にどのような影響を与えたのか考えます。1 月の研究会では、「月夜と眼鏡」と中心に、自然と人間の関係を考えます。当面は未明童話の代表作を取り上げ、背景にある未明文学の脈を探り当てていきたいと考えています。3 月の研究会は、ミニシンポジウムを予定しています。

本日も未明顕彰について話し合います。文学館での活動、市内・外における活動、その他の活動さまざま考えられます。文学館は高田図書館の中にあり、多くの人が集まる場所です。文学館に人を導く流れを作りたいと思います。とくに子供たちが多く集まる場所にしたいと思います。9 月は、文学館のクリスマス展示について考えてみました。童話に係る実物の展示を実施してみようと思います。

クイズラリーのクイズづくり、ぬりえの選定、子供朗読会の開催等々、さまざまなアイデアを募集いたします。

次の会場は、ミューゼ雪小町です。お間違えになりませんよう。次回は、「金の輪」について考えます。後半は、具体的な顕彰の話を行います。



▼とき：毎月原則第 1 土曜日午後 2 時～4 時 (2 月・8 月はお休み) ▼ところ：高田小町ほか ▼連絡先：小埜裕二 (携帯 080-1383-9617 研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp)

今後のスケジュール (予定)

開催日	研究報告	開催場所	備考
9 月 3 日 (土)	「大きなかに」	高田小町	顕彰のための全体構想を考えます。
10 月 1 日 (土)	「郷土と海」	高田小町	
11 月 5 日 (土)	「赤い蠟燭と人魚」	高田小町	
12 月 3 日 (土)	「金の輪」	ミューゼ雪小町	
1 月 7 日 (土)	「月夜と眼鏡」	高田小町	
2 月はお休みです			
3 月 4 日 (土)	ミニシンポジウム	高田小町	

平成 28 年 12 月 3 日

第 4 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

冬支度はもうお済みになられたでしょうか。本日もご多忙のなか小川未明研究会にご参加下さり、ありがとうございます。

9 月の研究会では、「大きな蟹」を取り上げ、人の生死の厳肅性を自然との関わりにおいて描いていることをお話しました。そうしたテーマを子供に伝えることをよとした童話に対する未明の確かな思いがあったことにも触れました。

10 月の研究会では、未明の聖地としての郷土が、春日山の上下の空間だけでなく、海に向かう南北の空間からも特徴づけられることをお話しました。上下の空間は「雲」によって、南北の空間は「海」によって作品化されています。北の「海」から流れくるエネルギーによって、未明文学がたえず活性化されてきたと述べました。

11 月の研究会では、「赤い蠟燭と人魚」が発表された大正 10 年前後に未明がどのような作品を書いていたのかを整理し、本作を通して何を伝えようとしたのか考えました。

本日の研究会では、「金の輪」を中心に、子供の死が未明文学にどのような影響を与えたのか考えます。1 月の研究会では、「月夜と眼鏡」と中心に、自然と人間の関係を考えます。当面は未明童話の代表作を取り上げ、未明文学のバックボーンを明らかにしていきます。3 月の研究会は、ミニシンポジウムを計画中です。

小川未明文学館講座全 3 回が無事終わりました。読み聞かせの会にも顔を出ささせていただきました。文学館が少しずつ賑やかになっていっているように思います。文学館を子供たちが多く集まる場所にしたいと考え、9 月の研究会で顕彰活動について話し合った成果として、文学館にクリスマスツリーを飾り、未明の「よっぱらい星」が読めるようにしてもらいました。貼り絵を完成させたいと思いますので、ご協力下さい。今後も童話に係る実物展示を実施していきたいと思います。

次回の新年の会場は、高田小町です。吉例の新年会も行います(1 月分の童話「月夜と眼鏡」も読んできて下さい。短く解説します)。会費は 1500 円(アルコールはありません)。当日会費を頂戴いたします。終了時刻が 4 時 30 分の予定です。

▼とき：毎月原則第 1 土曜日午後 2 時～4 時 (2 月・8 月はお休み) ▼ところ：高田小町ほか ▼連絡先：小埜裕二 (携帯 080-1383-9617 研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp)



今後のスケジュール (予定)

開催日	研究報告	開催場所	備考
9月3日(土)	「大きなかに」	高田小町	顕彰のための全体構想を考えます。
10月1日(土)	「郷土と海」	高田小町	
11月5日(土)	「赤い蠟燭と人魚」	高田小町	
12月3日(土)	「金の輪」	ミューゼ雪小町	
1月7日(土)	「月夜と眼鏡」	高田小町	新年会
2月はお休みです			
3月4日(土)	ミニシンポジウム	高田小町	

平成 29 年 1 月 7 日

第 5 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

あけましておめでとうございます。旧年中は小川未明研究会のみならず、諸方面でたいへんお世話になりました。新年も小川未明の顕彰と研究に努めたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様方のご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

本日は、特別ゲストをお招きいたしました。丸山澄男さんです。未明が生まれた幸町の家の隣に丸山さんのお家がございました。未明が生後まもなく丸山家に預けられたことは皆さんもご存知のことと思います。今日は、その丸山家と小川家とのかかわりのことなどを当代から数え三代目にあたる丸山澄男さんからうかがいます。

後半は、恒例の新年会を行います。

2 月の研究会はお休みです。

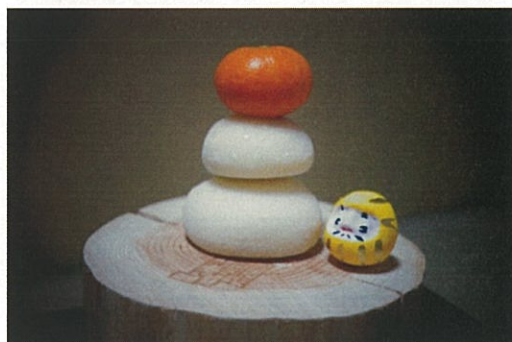
3 月の研究会はミニシンポジウムを開催します。先月の研究会で取り上げた「金の輪」の背景について、未明の小説を読みなおすことで再考したいと考えています。「藪影」「黒幕の内」「すべてが美しく」等の小説の特質と意義について、新潟大学の堀竜一教授、上越教育大学大学院生数名から報告してもらったあと、皆さんと一緒に話しあいます。3 月のミニシンポジウムは広く市民の方にも参加を呼びかけたいと思います。お知りあいの方で未明に関心のある方がおられましたら、お声をかけて下さい。

「月夜と眼鏡」は 4 月の研究会で扱います。新年度も、未明の顕彰と研究をテーマに予定どおり実施いたします。

小川未明文学館を子供たちが集まる場所にしようと、靴をぬいで上げられるソフトマットを床に敷いてもらいました。クリスマスには、ツリーを飾り、未明童話「よっぱらい星」をモチーフにした絵を子供たちに描いてもらいました。今後も文学館の基点に顕彰活動の輪を広げていきます。

次回ミニシンポジウムの会場は、高田小町です。

▼とき：毎月原則第 1 土曜日午後 2 時～4 時
(2 月・8 月はお休み) ▼ところ：高田小町
ほか ▼連絡先：小埜裕二 (携帯 080-1383-9617
研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp)



今後のスケジュール (予定)

開催日	研究報告	開催場所	備考
9月3日(土)	「大きなかみ」	高田小町	顕彰のための全体構想を考えます。
10月1日(土)	「郷土と海」	高田小町	
11月5日(土)	「赤い蠟燭と人魚」	高田小町	
12月3日(土)	「金の輪」	ミューゼ雪小町	
1月7日(土)	「月夜と眼鏡」	高田小町	新年会
2月はお休みです			
3月4日(土)	ミニシンポジウム	高田小町	

平成 29 年3月4日

第 6 回「小川未明研究会」(第 2 期)

小埜裕二 (上越教育大学)

2 月はさほど雪が降らなかったように思います。それでも春の訪れは毎年かわらず嬉しいものです。ともかく一から頑張ろうという気持ちになります。本日は、シンポジウムを開催します。「金の輪」の背景について、未明の小説を読みなおし再考します。「葦影」「黒幕の内」「すべてが美しく」等の小説の特質と意義について、新潟大学の堀竜一教授、上越教育大学大学院生の白井智大さん、片桐遼平さんから報告してもらった後、皆さんと一緒に話しあいたいと思います。本日のシンポジウムは市民の方にも参加を呼びかけました。ご参加いただいた方に、あつくお礼申し上げます。(研究会にも引き続きお出でになって下さい。)

シンポジウム 未明文学の基底を読む～哀しみの行方～

小川未明は、大正 3 年と大正 7 年に二人の子供を病気で失っている。未明の悲しみは深く、その思いを表した小説は哀切で、われわれの胸を打つ。未明の文学は、そうした悲しみを真正面から受けとめるところから生まれた。シンポジウムでは、未明の哀しみを表した代表作「葦蔭」「黒幕の裏」「すべては美しく」を読み、また、その他の関連小説の紹介と整理を通して、未明文学がどのように成立したかを検討するとともに、未明の代表的童話「金の輪」の成立について討議する。

1 月は、特別ゲストをお招きいたしました。丸山澄男さんです。未明が生後まもなく丸山家に預けられたことは皆さんもご存知のことと思います。丸山さんから、丸山家と小川家との深いかかわりについて貴重なお話をいただきました。

新年度からも「小川未明の研究と顕彰」をテーマに研究会を開催します。4 月は「月夜と眼鏡」及びその周辺について考えます。

3 月 12 日(日)には市民プラザでフラメンコ(港についた黒んぼ)の公演があります。25 日(土)には小川未明文学賞贈呈式があります。4 月 7 日(金)には未明生誕 135 周年の記念イベントがあります。また、4 月から「上越タイムス」で毎週、未明文学の紹介記事を連載します。新年度は、未明生誕地の整備及び顕彰活動にもう一步踏み出します。



次回会場は、高田小町です。

▼とき：毎月原則第 1 土曜日午後 2 時～4 時 (2 月・8 月はお休み) ▼ところ：高田小町ほか ▼連絡先：小埜裕二 (携帯 080-1383-9617 研究室 025-521-3316 メール yuji@juen.ac.jp)

今後のスケジュール (予定)

開催日	研究報告	開催場所	備考
4月1日(土)	「月夜と眼鏡」	高田小町	
5月13日(土)	「野薔薇」		第 2 土曜です
6月3日(土)	「雪来る前の高原の話」		
7月1日(土)			
8月はお休みです			
9月2日(土)			
10月7日(土)			